

## 職員研修 実践例

### A小学校の例

難聴児の入学が決まったA小学校では、事前に先生方の聴覚障害への理解を少しでも図ろうとの考えから、年度初めの研修を計画されていました。本校のHPをご覧になり、依頼の電話をいただきました。

#### ①連絡

1月 ・A小学校より新年度に難聴学級が新設されるため、入学式前の職員研修依頼(電話)

#### ②申込み

3月上旬 ・A小学校より「日時」「参加職員数(見込)」を決定(電話)  
・依頼文書の送付依頼

#### ③打合せ

3月中旬 「希望の内容」「難聴児の実態(聴力等)」「在籍校準備物」等を確認(電話)  
3月下旬 本校より「当日資料」「感想用紙」送付(メール)

#### ④当日

4月上旬 職員研修実施(60分)

- ・(講義)聴覚障害とは、難聴児の実態等
- ・(演習)聞こえにくさの疑似体験を通した心情理解と支援内容の検討
- ・(講義)学校生活における配慮事項等
- ・(感想記入)プリントまたはフォームへ

(例) ○「聞こえにくさ」のイメージはある程度もっていましたが、ここまで聞こえづらいものかと驚きました。

○補聴器体験、ロジャーの体験などができ、大変有意義な研修でした。

#### ⑤フィードバック、その後

5月 本校より、感想アンケートの集計の送付(メール)  
担当者(難聴学級担任)とその後の状況等について協議

難聴児の入学に伴い、研修を基に環境整備をされたA小学校。その後、学校生活を進める中で出た課題や疑問等は、難聴学級担任や特別支援教育コーディネーターを通じて本校に質問等があり、継続してつながりをもっています。

## 難聴理解職員研修の意義

きこえない、きこえにくい児童生徒とその周囲の児童生徒が適切な関わり方をしていくためには、まず学校職員がきこえない、きこえにくいことを理解し、見本となって関わり方のモデルを示すことが大切になります。また、普段から周囲の児童生徒へのよりよい関わり方を働きかけるとともに、きこえない、きこえにくい児童生徒の障害認識を深める意味でも、職員がその立場に立って考えることのできる難聴疑似体験をお勧めします。

「難聴理解学習ガイド」より

## 職員研修の感想

### 小学校

難聴疑似体験をして、聞こえにくいと理解ができずとてもつらかった。「わかりません」と言える環境を作ることも大切だと思った。

### 小学校

何よりも確実に伝わりやすい視覚情報を様々な形で示すことが大切だと思います。そして、周りの友達にも知ってもらうことが重要だと思いました。

### 中学校

ロジャーの機能や具体的な音の聞こえ方が理解できたので、場面に応じて使い分けていきたいと思います。やることを黒板に書く、聞く場面と書く場面を分けるなどは他の生徒達にとっても効果的だと思うので意識していきたいです。

### 高等学校

生徒がどこに困りごとがあるか教師としても理解し、生徒とコミュニケーションをとって、どのように支援してほしいか(セルフアドボカシー)を伝えてもらえるよう関係性を築いていきたい。